



JA今金町女性部フレッシュミズ部会視察研修を実施
～褐毛和牛視察風景（詳細P7へ）～

TOPICS! トピックス

p1 新婚さんご紹介

田代地区 阿部明弘さん・麻衣さん ご夫妻



p5 ▶ p6 令和5年度『青年部活動報告』



JA今金町公式YouTube チャンネル登録・高評価お願い致します!

田代地区

あべ
阿部

あきひろ

ま
明弘

さん (29歳)

まい

さん (28歳)

FARMERS' SPIRIT
ファーマーズスピリット

今月号は田代地区の

阿部 明弘さん・麻衣さん

ご夫婦を紹介します。

明弘さんは東京農業大学（北海道オホーツクキャンパスで修学）を卒業後、一般企業を経て、令和3年4月に、祖父である阿部勇さんの下で就農されました。二人の出会いは大学時代に遡り、麻衣さんが明弘さんと同じく東京農業大学（北海道オホーツクキャンパス）へ栃木県から進学され、所属したフォトサークルで明弘さんとお出会ったそうです。大学卒業後疎遠になっていたそうですが、4年ほど前にSNSで連絡を取りあった事から交流が再開し、令和5年10月にめでたく入籍されました。

お互いに「笑顔が絶えない家庭」を築いていきたいとの事で、今後の営農についても明弘さんから「すぐに余裕のある生活とはいかないとは思いますが、毎年家族旅行に行くことを目標に少しずつ経営を軌道に乗せていきたい」、麻衣さんからは「将来子どもが生まれたときには楽しんで作業をしてみたいような農業をやりたい」と家族を第一に想い合う姿が伺えました。

祖父の勇さんからは「今と昔とは営農の形態が変わって難しい時代ではあるけど、農業に真剣に向き合っていけば収穫には間違いなくつながるので、二人には無理しない程度に頑張ってもらいたい」と激励の言葉をかけられていました。

最後に、お互いへのメッセージをお伺いしたところ、明弘さんからは「無理しすぎずに頑張っていきたいと思います」、麻衣さんからは「仲良くお願いします」と若干照れながら答えていただきました。

お二人で素敵な家庭を築いていってください。

【家族構成】

阿部 勇さん（祖父 :89歳）

【経営面積】

水稻 3.6ha ブロッコリー 0.3ha

ミニトマト 196坪



左から麻衣さん、勇さん、明弘さん

JAこしみず・JA摩周湖・JA帯広大正
JA夕張市・JA今金町・JA北海道中央会

JAグループ北海道 SNS研究会 フォロワー 5万人増

全道5JAが協同の力で情報発信強化に取り組む

JAグループ北海道では、第30回JA北海道大会において「北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」が決議され、今後ますますJA・連合会・中央会が一体となって農業・JAへの理解醸成に向けた取り組みを進めて行くことが重要です。

その手段の一つとして、近年InstagramやX(※旧Twitter)などのSNSを活用し全道のJAでは情報発信を行っています。より効果的な活用を推進していく事を目的として中央会が事務局となり、令和5年7月に「SNS研究会」が発足しました。

この会には全道各地からSNS活用に積極的なJAが選ばれ、「JAこしみず」「JA摩周湖」「JA帯広大正」「JA夕張市」「JA今金町」が参加。JAグループ北海道のSPサポーターで企業のSNS代行業などの実績を持つ浅井未歩さんを講師にSNSに係る勉強会や事例報告、参加JA同士のコラボキャン

ペーンなどを実施してきました。これらの取り組みを通じ、参加JAのSNSアカウントのフォロワー数増加や、参加JAのJA全中インスタコンテストでの受賞など、参加JAのSNS広報は着実に強化されてきました。

2月6日に行われた第3回目となる研究会では、一連の取り組みにより初会合の時点から比べて5JAの合計フォロワー数が約5万人増え11万人を超えたことが報告され、JA今金町においても、この1年間の活動、交流を通じてXのフォロワーが4百人から約2万人へ増加するなど非常に大きな効果を発揮。「認知拡大・発信力の強化」「SNS運用スキルの向上」「盛り上がりへの創出(フォロワーとのやり取りの増加)」など、非常に意義のある取り組みとなりました。6年度からは、より多くのJAがSNS運用スキルを身につけ積極的な情報発信をしていく必要があることから、毎年新たなJAを選定し研修と情報交換を行うべく予定。5年度メンバーはOBとして新メンバーへ協力しSNSアカウントの輪を広げていく予定となっています。



1年間の活動を終えて

(後列左から) 中央会筒井氏・JA夕張市藤本係長・JAこしみず山下係長
中央会五十嵐氏

(前列左から) JAグループSPサポーター浅井未歩氏、JA帯広大正竹山課長
JA今金町工藤課長、JA摩周湖菊池氏、中央会高橋課長

JA今金町の食育教室

For the children

人々の食を支える農業の尊さに子どもたちが気づき、
大人になっても地元の食や農を応援したいと思ってくれたら。

それがJA今金町の願いです。



農業のために 地域のために 明日のために

JA 共済の
地域貢献活動

JA今金町の食育教室はJA共済の支援を受けて実施しています。食育教室の様子はこちらから➡



理事会報告

第1回理事会（令和6年2月21日）

◆報告事項

1. 農業委員会総会報告について
2. 決算監査の実施について
3. 令和5年度事業決算の報告について
4. 令和5年度組合員の加入・脱退状況について
5. 内部監査報告について

◆議決事項

- 議案第1号 第56回通常総会日程について
- 議案第2号 不良債権の処理方針について
- 議案第3号 農協懇談会意見・要望と回答について
- 議案第4号 組合員・利用者本位の業務運営に関する取組方針について
- 議案第5号 出資持分の譲渡について
- 議案第6号 学識経験者理事候補者及び員外監事候補者の推薦について

◆その他

第2回理事会（令和6年2月22日）

◆報告事項

1. 組合員学習計画の報告について
2. コンプライアンス・プログラムの取組状況の報告について

◆議決事項

- 議案第1号 理事者への貯金・共済担保貸付の承認について
- 議案第2号 農業協同組合検査指摘事項改善・対応状況等報告書について
- 議案第3号 令和6年度経営定期点検実施計画について
- 議案第4号 販売業務規程の改正について
- 議案第5号 酪農畜産業務規程の改正について

◆協議事項

1. 令和6年度事業計画について

◆その他

わたしたちの財産 「今金男しゃく」 を守りましょう！

～ジャガイモシストセンチュウの
拡散防止にご理解・ご協力下さい～

男爵薯はセンチュウ抵抗性のない品種です。

先人から連綿と引き継がれてきた「今金男しゃく」
を守るためにもジャガイモシストセンチュウ拡散防
止にご理解・ご協力をお願いいたします。

ジャガイモシストセンチュウの 侵入・拡散を防ぐために

- ①ジャガイモシストセンチュウは、土に混じって侵入・拡散します。関係者以外は畑に入らないでください。もし入る場合は靴を必ず洗い、畑から出た後も必ず洗ってください。
- ②種芋や苗木、球根などを購入（ホームセンターなど）する場合、発生地域から侵入させてしまうことのないようにお願いします。
- ③中古の農機具を購入した場合、必ず洗浄して土砂の付着が無いことを確認してから使用してください。
- ④魚釣りや山菜採りに出かける場合も畑に入らないように注意してください。



JAコネクト
絶賛稼働中！

FAX 情報
をスマホ
で確認

FAX 文書
がどこで
も見れる

ご質問は管理部（82-0211）
までお願いいたします

JAコネクト通信配信中！

JAコネクトではFAXの電子化だけではなく、JA今金町や農業にまつわるニュースを組合員・役職員にお伝えする『JAコネクト通信』を不定期に配信しております。

JAコネクトに利用料はかかりませんので、是非ご利用ください。

※JAコネクトは組合員とJAをつなぐアプリです。

ご利用に関する質問につきましては、

JA今金町管理部（82-0211）迄お願いいたします。

スキー大会に参加した皆さんで集合写真



ピリカウィンターフェスティバル

2024/2/11(日) 10:00~14:30

スキー大会開催 雪あそびイベント

ピリカマルシェ

抽選会も開催!



子ども達に“いまるん”大人気

ピリカで冬の賑わい

ウィンターフェスティバル開催

2月11日、ピリカスキー場において『ピリカウィンターフェスティバル』が開催され、約400名が来場しました。

この催しはアルペンスキーGS（ジャイアントスローム）大会として実行委員会が実施。令和4年度からはピリカ地域の観光資源を活かした町興しを目指す「ピリカプロジェクト」と共催で行われており、今回で共催2回目を迎えました。

町内外からたくさんの方が参加するスキー大会の他に、子供たちが楽しめる滑り台やミニゲームを開催。また「ピリカマルシェ」と題して、キッチンカーが大集合して会場を賑

わせ、JAではピリカプロジェクトのメンバーとして運営に参加し、今金男しやくや今金濃米などを販売。今金町の農畜産物を来場者にPRしました。また、クアブラザピリカ「加味丘ダイニング」の地場農産物を使ったテイクアウト料理も販売されるなど、賑わいあふれる冬のイベントとなりました。

ピリカマルシェ

ピリカウィンターフェスティバルは牛乳の消費拡大を応援しています!

ホットミルク 50円(税込)

消費拡大! ホットミルク大好評!

道 今金濃米 280円

ピリカマルシェで今金男しやくや加工品を販売

アグベンチャーラボ賞

令和5年度『JA青年組織手作り看板製作運動ならびに全国コンクール』



アグベンチャーラボ賞を受賞した看板



ワイワイ楽しみながら夜遅くまで看板製作が行われました

令和5年度JA青年組織手作り看板製作運動ならびに全国コンクールにおいて、当青年部が応募した看板が『アグベンチャーラボ賞』を受賞し、その結果が1月29日付けの日本農業新聞に掲載されました。コンクールには看板部門64作品が出品され、そのうち入賞は10作品のみとなります。青年部のSNSにもフォロワーの皆さんから「素敵なお絵です」「クセが強いけど心温まる絵」などお祝いのコメントが届きました。

看板製作に携わった部員からは、「昨年から引き続き今年も賞を頂くことができてとても嬉しいです。2年連続で全国での受賞は、初めての事だと思っております。光栄です。これからもPR活動に力を入れていきます!」と喜びの声がかげられました。今後も青年部ではSNSや看板製作など、農業・産地のPRに力を入れて活動を行っていくとのことです。



青年部

Now!!

令和5年度青年部活動報告



青年部活動報告



金原・八東合同支部懇談会～スマート農業について～



看板コンクール表彰～全道JA青年部大会にて～

年間活動

3月：総会

7月：道内視察研修

12月：収穫祭

2月：学習会

その他：各支部学習会・上部団体行事参加

本年はコロナ禍も明け、視察研修や学習会、上部団体である道南地区青協の行事など様々な活動を行ってまいりました。

中でも看板作製においては、4年連続で北海道看板コンクールに入賞し、全国でも2年連続の受賞（詳細はP4に掲載しております。）となるなど、今まで行ってきたPR活動が身を結んでおります。

これからも青年部は、地域農業の担い手として、学びの場を増やすとともに、産地PRもドンドン行ってまいります。

道内視察研修

実施期間：7月12日～13日

視察先：国際農業機械展
Fビレッジ農業ブース 等

参加人数：9名



最新の機械を視察する参加部員



Fビレッジ内（株）クボタ体験ブース前にて

本年の視察研修では、国際農業機械展とFビレッジ内にある株式会社クボタの農業体験ブースの視察を行いました。

両方とも最先端の技術を見ることができましたが、特に国際農業機械博では最先端の機械として、馬鈴薯の機上選別をAIで行う装備が展示されるなど、今金町の農業における課題解決に向けた一端を垣間見たように思います。

今後もJA今金町青年部では部員の知識向上に向け視察研修を企画・実施していきます。

食育事業を実施！

実施日：令和5年8月28日
 場所：土橋龍二部長の圃場（八束）
 対象：今金町学校3年生児童
 協力：今金町畑作部会



熱心に収穫する今金小学校3年生の児童たち



収穫を終えた児童と土橋青年部長

JA今金町青年部の新規事業として今金小学校3年生を対象に芋ほり体験を企画、実施致しました。

今金小学校では3年生で「今金男しゃく」について1年間かけて学習する授業を行っておりますが、実際に圃場を見ることはなかったようで、圃場で「今金男しゃく」に触って欲しいとの思いから、JA今金町青年部と今金町畑作部会が協力し実施いたしました。

SNS・Youtubeでの広報活動

企画内容：『今金町の特産品プレゼント』
 実施品目：今金男しゃく
 PR 動画作製
 実施品目：今金男しゃく・ミニトマト 等



←青年部のXはコチラです！



『今金男しゃく』収穫風景の投稿

幻のジャガイモ
 『今金男しゃく』
 収穫始まる！



ミスターKチャンネル外伝



ミスターKジュニア潜入

衝撃(?)

飛ぶ○○○○

↑↑ 今回の主役はこの人！

ドローン防除の様子を撮影

5年度も Youtube による動画配信や SNS を活用したプレゼントキャンペーンを実施致しました。

本年からはより拡散力を意識し SNS の媒体を Facebook から X (旧 Twitter) へ主軸を移し活動を行いました。次年度以降も、今金町の生産者が安心して営農していける環境作りを目指し、PR活動を続けて参ります。

函館「コミュニティ放送局」
「FMいるか」で
「ふつくりん」をPR

2月5日にふつくりんこをPRするために、今金町稲作部会副会長の平原大輔さんが、『函館育ちふつくりんこ蔵部』副部会長の佐藤純司さんと共に函館のFMいるかに出演しました。

番組では令和4年に制定された「ふつくりんこの日（毎年2月9日）」をPR。この記念日に合わせて行われる、ラッキーピエ工口港北大前店など函館市内や、道南各地のイベントの告知が行われました。50周年を迎える今金町稲作部会では昨年、PR動画を作成したり、ゆめぴりかが地区金賞に輝くなど活動が活発に行われており、今後の活動にも期待が高まります。



左からMCの佐藤はるかさん、平原大輔さん、佐藤純司さん

J A 今金町青年部
持続的な農業に向けて
学習会を開催

2月9日、J A 今金町青年部が学習会を開催しました。

学習会では今金町役場農林振興課の皆様を講師に、国の補助事業など農業施策についての考え方や、向き合い方などを学び、部員からは補助事業への対応や、第8次今金町農業振興計画の進捗について等の質疑が交わされました。

土橋青年部長からは「農業情勢の変化に対応し、営農を続けていくためには補助事業の活用はとても大事になる。今後も行政との交流を継続し、地域の担い手である青年部員の知識向上に役立てていきたい」と今後の継続的な学習会の開催が確認されました。



開催にあたり挨拶をする土橋部長

J A 今金町女性部フレッシュミズ部会
道内視察研修を実施

2月20日、J A 今金町女性部フレッシュミズ部会が知内町・木古内町へ視察研修に訪れました。

本視察は道南においてブランド化されている農畜産物について、ブランド化までの経緯や取組について学ぶために計画されました。知内町ではニラを、木古内町では褐毛和牛をそれぞれ生産者の方々にご対応いただき視察し、地域での取組や営農の悩みについてなど質疑が交わされた他、「今金男しゃく」についての質問を受けるなど、お互いの地域の特産品についても意見交換を行いました。

知識向上、会員間の交流など今後も活発な活動が期待されます。



ニラの生産現場を視察する会員の皆さん

檜山北高3年生
「今金男しゃく」で
商品開発

2月29日に「今金男しゃく」を使用したメニュー「おいもちっとばーがー」を開発した檜山北高校生徒に対して今金町畑作部会から感謝状が手渡されました。

同校では高校2年生から一つのテーマを決め、テーマに沿った課題解決に向けた研究に取り組んでおり、昨年「今金男しゃく」の消費拡大を目的に地域と連携し、内ヶ島優花さん、上野琴音さん、齋藤愛芽さん、竹内碧唯さんの4名が幾多の試作を重ねてこのメニューを開発しました。

町内の飲食店「喰いどころ田なか」で味わうことができるので、みなさま是非ご賞味ください！



部会役員から、今金男しゃくを使ったメニューを開発してくれた事に対する感謝の気持ちが伝えられました

営農支援システム 組合員データ照会サービス 使ってみませんか？

その場で収支が
すぐにわかる



簿記帳用の
データも出力
できて作業も
ラクラク！

※出力データはソリ
マシ簿記取込用に
なります

クミカン実績とクミカン収支がパソコン・タ
ブレット・スマホで確認できるサービスです。
皆様も是非活用してみませんか？

※利用料は年額 550 円（税込）です

お問合せは管理部管理課大西（82-0211）
までお願いいたします。

令和5年度売れる米づくり推進事業決算書

令和5年2月1日～令和6年1月末日

科目	金額
前期繰越	529,617
拠出金	2,667,134
収入計	3,196,751

科目	金額
宣伝広告費	1,581,231
農産物プレゼント	46,830
販促・旅費	1,016,145
雑費	100,000
支出計	2,744,206

当事業については生産者自らの拠出により広く今金米の
販売促進を行い、稲作経営の安定と所得向上に資する
ことを目的としております。

令和5年度については、「営農支援サービス天晴れ」
の試験や、十日えびすへのお米の奉納などを行いました。

今後についても今金米PRのために事業推進を行って
参ります。

今月の二宮先生



「人の長所を友とせよ」

翁のことばに、論語（子罕篇）に「己おのれ

に如しかざる者を友とするなかれ。」とある

のを、世間で取りちがえている人がある。

人々には、みんなそれぞれ長所があり、

短所もどうしてもあるのだから、このこ

とばは、その人の長所を友として、短所

は友とするなどという意味と心得るがよい。

つまりその人の欠点を捨てて、その人の

長所を友とするのだ。

多くの中には、才気は足りなくても能

筆の人もあるだろう。世事にはうといが

立派な学者もあるだろう。無学でも世事

には賢い人もあるだろう。無筆でも農事

にくわしい人もあるだろう。みんなその

長所を友として、短所は友とするなどい

う意味なのだ。

（二宮翁夜話より）

協同組合の先駆者である二宮尊徳が残した言葉の数々を紹介します。
先人の言葉には時代が変わっても普遍的な学びがあるのではないでしようか。
皆様の心と生活がより豊かなものになるヒントになれば幸いです。



JA 
GROUP 
HOKKAID

JA グループ北海道の新しいロゴマーク これからの JA グループ北海道を 象徴するロゴマーク

北海道を代表する稲作、畑作、酪農をひと繋ぎに表現。

稲作、畑作、酪農の6つのアイコンをJAの代表的な6つの事業
(営農指導、信用、共済、販売、購買、厚生)と重ね合わせています。